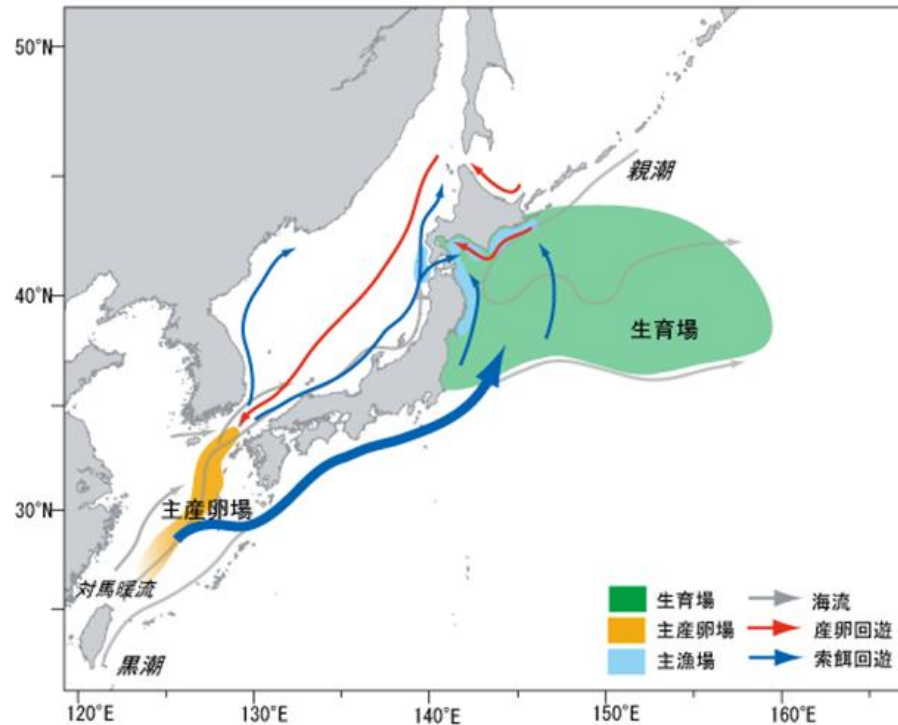




# スルメイカ冬季発生系群 令和元年度資源評価結果

# スルメイカ冬季発生系群の生物学的特性



- ・東シナ海で12月～3月に産卵
- ・太平洋を北上、日本海を南下
- ・主に太平洋で8月～12月、  
日本海で11～2月に漁獲

○寿命：約1年    ○成熟開始年齢：雄は約6～7カ月、雌は約7～8カ月以降  
○食性：甲殻類、小型魚類、いか類    ○捕食者：主に大型魚類、海産ほ乳類

# 資源評価の流れ

## 資源調査

- 7～10月の小型いか釣り漁船の漁業情報
- 8～9月の調査船調査結果

これらの情報による資源量指標値から資源量を推定

## 2019年漁期資源量推定

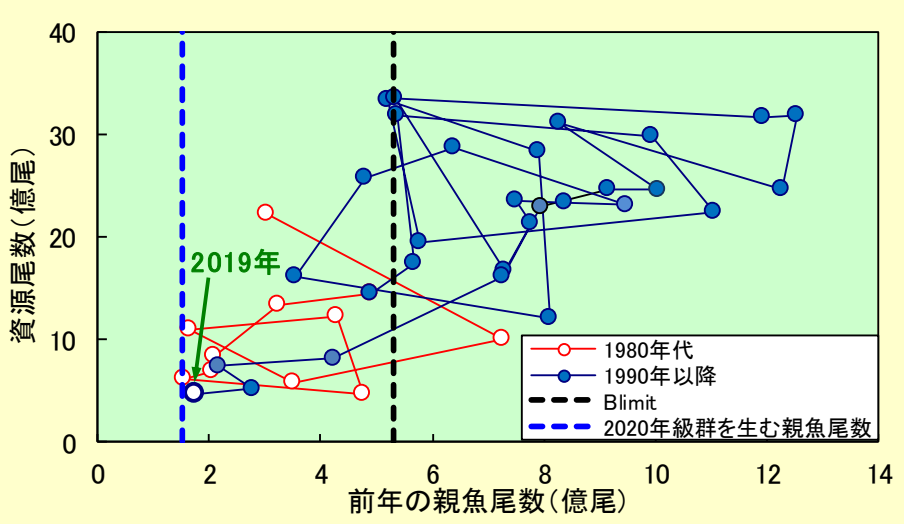
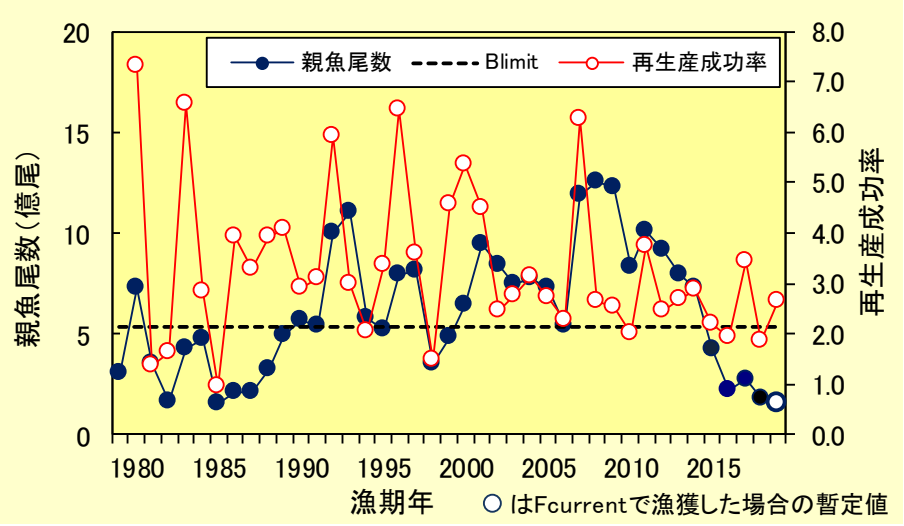
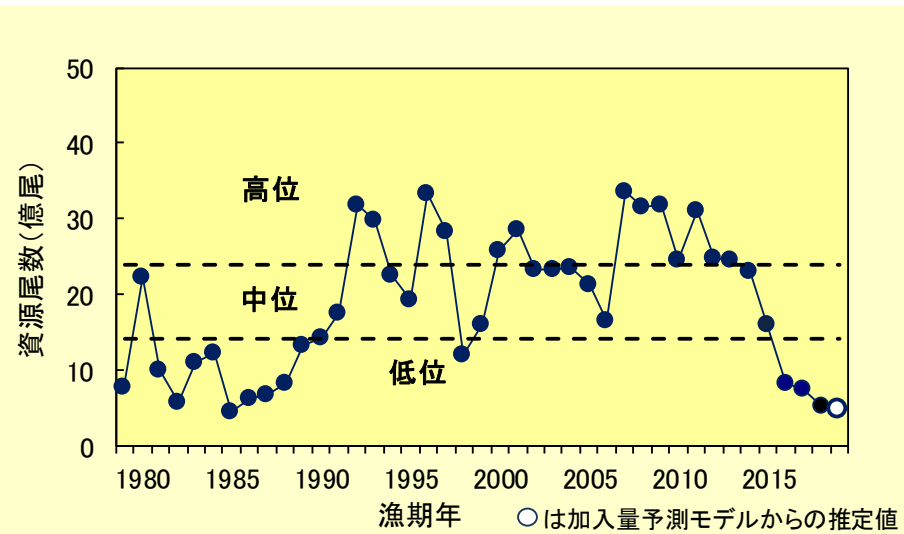
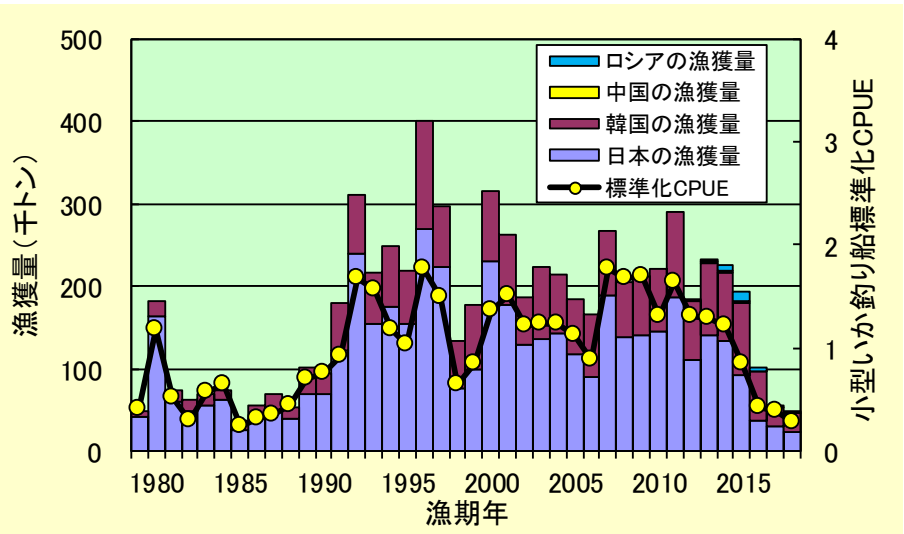
### 再生産関係

※親魚量と生み出されて  
生き残った子の量(資源量)  
との関係から推定

## 2020年漁期資源量予測

### 各漁獲シナリオの検討

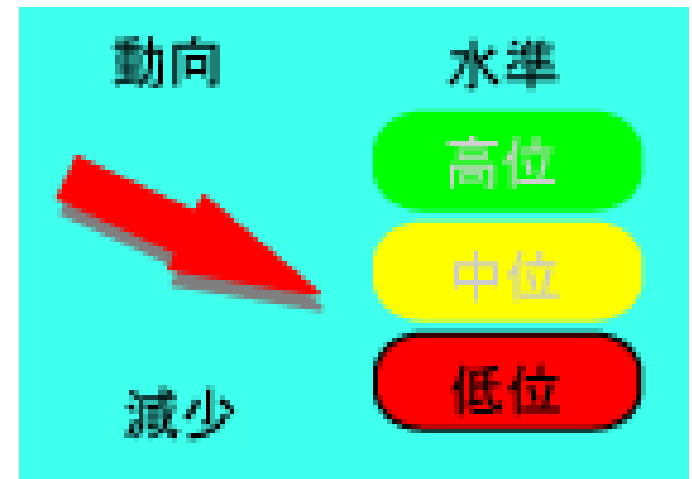
## 2020年漁期ABCの算定



2019年 資源量: 4.6億尾・14.4万トン  
 親魚量: 1.5億尾・4.7万トン(2019年漁期終了時)  
 (Blimit = 5.3億尾 以下)

# 資源評価のまとめ

- 資源状況
  - 2019年：資源量14.4万トン、親魚量4.7万トン
- 資源動向・資源水準
  - 動向は**減少**・水準は**低位**（Blimitを下回る）
- 親魚量を**Blimit以上の水準に回復させる**ことが目標
- 2002年以降の再生産成功率（資源量／親魚量）は低めになる年が多く、生まれてから漁獲対象となるまでに生き残る確率が低下していると考えられる。



# 2020年漁期ABC表

- 2020年漁期の資源量と、漁獲シナリオ(管理基準)からABCを算出

資源量(2020)=124千トン、親魚量(2019)=47千トン、Blimit=165千トン

漁獲シナリオ (管理基準)	Target/ Limit	2020年漁期 ABC (千トン)	漁獲 割合 (%)	F値 (現状のF値か らの増減%)	2024年漁期後 の親魚量 (千トン) (80%区間)	確率評価(%)	
						2024年漁期後に 2019年漁期後の 親魚量を維持	2024年漁期後に Blimitを維持
親魚量の増大 (B/Blimit×Fmed) (Frec)	Target	7	6	0.09 (-84%)	322 (88~636)	96	69
	Limit	9	7	0.11 (-80%)	289 (79~572)	95	64
親魚量の増大 (5年でBlimitへ回復) (Frec5yr)	Target	9	7	0.10 (-81%)	301 (82~595)	95	66
	Limit	11	9	0.12 (-77%)	266 (73~526)	95	59
		2020年漁期算定 漁獲量(千トン)					
親魚量の維持 (Fmed)	Target	24	19	0.30 (-43%)	110 (30~217)	77	17
	Limit	29	23	0.38 (-29%)	75 (21~149)	59	8
現状の漁獲圧 の維持 (Fcurrent)	Target	32	26	0.42 (-20%)	59 (16~117)	46	5
	Limit	38	30	0.53 (±0%)	35 (10~69)	21	1